

# ナスの栽培法

2011/10/10

## 植えつけの準備

ナスは高温、多照条件を好む作物で、日当たりが悪いと生育不良を起こして収量が減りナス独特の光沢がなくなりやすい。とにかく日当たりのよい場所に作る。一般にうね立ては、根の張る範囲を深くすること、排水をよくすること、通路を確保すること等を目的として行ない、ここでは、うね幅180~200cm、うねの中心がやや盛り気味のカマボコ型になるように作る。

## 植えつけ

植えつけは晴天無風の暖かい日を選ぶ。地温15℃以上は確保しておくことが大切である。根鉢をくずしたり、根を乾燥させたりすることがないように速くていねいに行う。ポット育苗で鉢内に根が回っているとき、そのままでは活着が遅れるので、ポットの外から手でつまむように押し出すと、痛めずに根の先端部をある程度出すことができる。また、植えつけ直後に風等で株が揺れると活着が遅くなるので、仮支柱を立てて誘引する。

## 植えつけ後の手入れ

自家菜園の場合は放任栽培がほとんどであるが、品質のよい柔らかい果実を多収するには整枝が必要である。ナス科植物は花房直下の節の側枝の伸長がよく、特に第1花直下の側枝は主枝とほとんどかわらない生育を示し第1側枝という。これに次ぐ下の第2側枝も伸長旺盛である。通常は主枝、第1・2側枝の3本仕立とし、以下の側枝はすべて摘除する。管理面では、水分の維持がポイントで絶対に乾燥させないこと。追肥はチッソ、カリを主体に根に負担をかけるように位置を変えて施す。生育が進み枝数が増えると、通風・採光が悪くなるので適宜除去する。

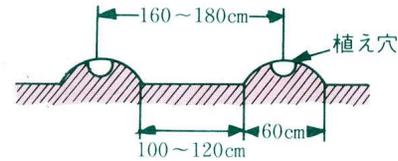
## 収穫

収穫適期は、種子の硬化がまだ始まらない開花後15~20日ぐらいの未熟果である。キュウリ同様、朝か夕方方の涼しいときの収穫が鮮度の持続性が高い。

日本種苗協会長崎県支部/市川種苗店  
※一部又は全部の引用を禁止いたします

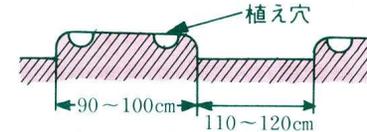
## 1. うね作り

### 1条植え



1条植えはトンネル被覆に便利で、どの株も日当たりがよい。

### 2条植え



## 2. 植えつけ



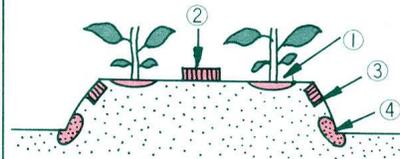
ポット育苗では根が全体によく水がしみまわっていることが多く、そのままでは根のひろがりがある上から静かに押し出して、はちから少し押し出して、はちの活着がおそくなる。ほぐす。

### 仮支柱



根の先端部分を外へ向けて、根はちとのあいだにすき間をなくすように静かに畑土を寄せ、軽く押さえる。仮支柱を立てて誘引しておく。

## 3. 追肥の方法



- ①根付け肥、②追肥2回目、③追肥3回目、④追肥4回目以降。
- ①は根のまわりに輪状に、②~④は生育をみて少量ずつ施す。

施用場所は根の負担を考えて、変えながら与える。

## 4. 整枝・3本仕立て



3本仕立てでは第2側枝より下の側枝を摘みとる。第1果はその後の生育に負担となるので早めに摘みとる。